

## 障害連シンポジウム 2017

# 私たちににとって、 くらしの場とは何か？ パート2 ～自立生活のさらなる重要性を確認する～

**日 時：2017年8月5日（土）13:00（開場）～16:30（終了）**

**会 場：東京都障害者福祉会館 B1・B2 会議室**

住所：東京都港区芝 5丁目-18-2

（都営地下鉄三田線 三田駅下車徒歩 1分、JR 田町駅下車徒歩 5分）

電話：03-3455-6321 FAX：03-3453-6550

内 容：【講演】

**石渡 和実氏（東洋英和女学院大学教授）**

【パネルディスカッション】

小上 泰雄氏（日野療護園 自治会長）

大橋 和子氏（救護施設・通所施設 元職員）

中根 英樹氏（CIL くにたち援助為センター 事務局長）

太田 修平（障害連参与）

昨年起きた津久井やまゆり園事件。原因の一つとして、介護や社会防衛の論理から障害者を一カ所に入れていたことがあるのではないかと。

日本には「障害者の生活の場として、入所施設はありだよね」という認識が依然と根強く、障害当事者の立場からすると納得し難いものがある。入所者は他の選択肢がないから施設にすることが大いにあり、それは障害を理由とする差別といえるのではないだろうか。

障害連は 2 年前のシンポジウムで生活の場について考えた。今回はさらに深掘りするかたちで、障害者権利条約に批准した現代における、入所施設の役割は何か、介助者との関係性はどうか、運動として自立生活できる環境をどう推し進めるかについて深めていきたい。

<後援> 日本障害フォーラム（JDF）、日本障害者協議会（JD）、DPI 日本会議、

DPI 東京行動委員会、日本労働組合総連合会（連合）、毎日新聞東京社会事業団、東京交通労働組合

**お問い合わせ**

**障害連（障害者の生活保障を要求する連絡会議）**

TEL 03-5282-0016 fax 03-5282-0017 E-mail [shogairen@infoseek.jp](mailto:shogairen@infoseek.jp)

ホームページ <http://www9.plala.or.jp/shogairen/>